



8区 大島輝琉選手



7区 杉岡響選手



6区 三浦有矢選手



5区 菅野茂則選手



4区 大内龍太郎選手



3区 佐藤彰洋選手



2区 細杉睦輝選手



1区 佐藤ちさと選手



16区 庄司伸也選手



15区 三本松里奈選手



14区 横山健大選手



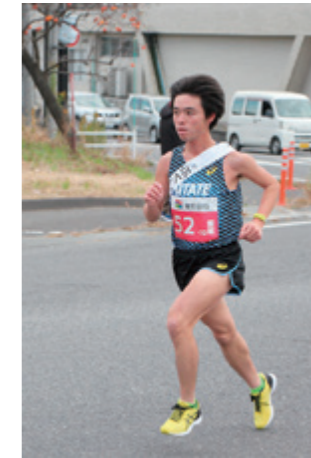
13区 佐藤賢二選手



12区 星 敬選手



11区 高橋七恵選手



10区 大内匡泰選手



9区 齋藤あおい選手

チームメンバー(敬称略)

- 総監督 林英滋  
 監督/3区 佐藤彰洋(消防飯館分署)  
 コーチ 向井 敏(いいたて希望の里学園)  
 コーチ 永井 努(いいたて希望の里学園)
- 1区 佐藤ちさと(IRC) 「とてもいい思い出になった」  
 2区 細杉睦輝(工学院大4年) 「駅伝が村と関わる機会。まだ限界じゃないと感じた」  
 主将/4区 大内龍太郎(飯館村社会福祉協議会) 「みんなで練習することの楽しさを感じた」  
 5区 菅野茂則(消防飯館分署) 「村から駅伝をなくしてはいけないと感じた」  
 6区 三浦有矢(いいたて希望の里学園) 「自分がこんなに頑張れたことがうれしかった」  
 7区 杉岡響(いいたて希望の里学園8年) 「完走できたことがうれしかった」  
 8区 大島輝琉(いいたて希望の里学園7年) 「自分がいま出せる最高の記録を出すことができた」  
 9区 齋藤あおい(西袋中2年) 「昨年の感動が蘇った。悔しさを糧に明日からまた頑張りたい」  
 10区 大内匡泰(菊池製作所) 「苦しくても気持ちを切り替えられた。来年も頑張りたい」  
 11区 高橋七恵(いいたて希望の里学園) 「沿道からの応援で前に進むことができた」  
 12区 星 敬(飯館村役場) 「歴史あるチームに参加することができて最高に楽しかった」  
 13区 佐藤賢二(JAふくしま未来) 「駅伝を通して仲間と走る楽しさを感じることができた」  
 14区 横山健大(いいたて希望の里学園) 「家族のようにあたたかいチームだった」  
 15区 三本松里奈(いいたて希望の里学園7年) 「応援がうれしかった。来年も頑張りたい」  
 16区 庄司伸也(飯館村役場) 「15年ぶりの出場。忘れられない年になった」
- サポート 宮里時真(いいたて希望の里学園8年) 解団式の選手の言葉より  
 サポート 根本奈於(いいたて希望の里学園)

ひたすらに想いをつないだ16区間の完走

16区間の完走、それは小さな奇跡でした。

今年のチームは補欠なしの16人。誰かがケガや病気で欠場すれば、その時点でオープン参加となってしまうギリギリの状況だったのです。

選手の確保が危ぶまれた今年、村の駅伝の灯を消すまいと集まった16人が、想いを胸に全力で駆け抜けた95kmでした。チームには、コーチ、サポートメンバーを含め「いいたて希望の里学園」の先生方、そして生徒が合わせて10人参加しています。「ふくしま駅伝」にまた一つ、物語が刻まれました。

高速レースとなったにもかかわらず、飯館村のタスキは5区まで繰り上げなしでつなぐことができました。仲間の力走がチームの勇気となり、アンカーまでがひたすらに、完走を目指しました。

ラジオの実況が「連続優勝していた時代、飯館村がふくしま駅伝の二つの顔でした」と語り、震災前の「はやま湖駅伝」に触れて「長距離に関する血が脈々と流れている。これからも頑張ってもらいたい」とエールを送りました。

村では今夏初めての「ナイター駅伝」が開催され、それをきっかけに今大会へ出場した選手もいます。苦しい中でも想いは継がれ、飯館村の新たな歴史が芽生えています。

ゴール後、林総監督は「中学生の頑張り、特に輝いていた」と講評。佐藤監督は「偉大な先輩方が築いてきた伝統があり、今も声援をもらえる環境がある。チームとして大成功の大会だった」と仲間の力走を讃えました。

総合成績 47位  
 記録 6時間9分10秒

「しらかわカタールスポートパーク(白河市総合運動公園)」陸上競技場～福島県庁前95.0km